



学校だより ふうしゃ

平成29年6月1日
アムステルダム日本人学校
No. 8
<http://www.jsa.nl/>

囀りとこぼさじと抱く大樹かな

(星野立子)

ここ数日、天気の良い日が続き、陽射しも強くなってきました。それでも子どもたちは校庭を楽しそうに走り回り、汗だくになって戻ってきます。教室の窓から爽やかな風が入ってくると、辺りからサワサワという音が聞こえてきます。枝を広げ緑の葉をたくさんつけた周辺の木々が、元気いっぱいに歓声をあげている子どもたちを、慈しんでくれているかのようです。そんな気持ちの良い季節になりました。

◆ 6月の学校行事 ◆

- 1日(木) 小学部朝会
第2回執行委員会
 - 2日(金) 林間学校説明会
 - 4日(日) 聖霊降臨祭
第1回英検(1次)
 - 5日(月) *聖霊降臨祭翌月曜日
 - 10日(土) 合同運動会
 - 12日(月) *振替休業
 - 13日(火) 委員会(小)
 - 15日(木) 第2回お話の森
ランチコンサート(低学年)
 - 19日(月) ヤギ牧場見学(1,2年生)
 - 20日(火) 第2回定期考査(中学部)
PTA 役員会
 - 21日(水) ~ 23日(金)
小学部林間学校
小学部1.年カレー給食
 - 26日(月) 講演会「命のビザ」
 - 27日(火) クラブ(小)
風車博物館見学(小3)
 - 28日(水) ~ 30日(金)
中学部林間学校
- *印は休日となります。

☆海外学校説明会☆

5月23日(火)に海外子女教育財団主催の学校説明会がありました。13の学校によるパネルトークや学校紹介のプレゼンに続いて、午後からは個別相談がありました。小学部5、6年生と中学部の生徒、本校並びに他校からの保護者と、200名近い参加がありました。帰国生に期待すること、受験までの準備など、参考になるお話をわかりやすく説明してくださいました。子どもたちも真剣に耳を傾けていました。時々ユーモアを交えた語りに笑いもありました。「挨拶もよく出来るし、反応も豊かで素晴らしいお子さん達ですね」と、来校されたたくさんの先生方からお褒めの言葉をいただきました。



◆◇◆学校行事を通して

～ 楽しいイベント！ 運動会・林間学校～◇◆◇

1年を通して、本校にはたくさんの学校行事があります。6月は子どもたちがとても楽しみにしている運動会と林間学校が実施されます。

どうしてこんなに学校には行事が多いのでしょうか？何のために学校行事はあるのでしょうか？その意義は体験的活動を通して、「社会性」を育てるところにあります。運動会において友だちと一緒に力をあわせて演技をしたり、教え合ったりすることが、思いやりや共感、協力といった人間関係力を育みます。また林間学校で決まりやマナーを守り、異学年と一緒に活動することは、所属感や責任感を身に付けることにつながります。

人との関わりを大切にさまざまな学校行事を実践し、社会性を体現することで、子どもたちの豊かな心の育成を目指しています。

「その後のウサギとカメ」の話について

1984年、ロサンゼルス五輪の女子マラソンをテレビで観ていた私は画面に釘付けになりました。最下位の選手がふらつきながらスタンドに入ってきてゴールしました。その選手の名はガブリエラ・アンデルセン（スイス・当時39歳）。脱水症状を起こしても、あきらめず最後まで競技を続けたその姿にスタンドの9万人が総立ちで励まし、世界に大きな感動を呼びました。彼女の記録は2時間48分42秒の37位、見事な最下位でした。翌日の世界中のスポーツ紙では、メダルを取った選手よりもこのアンデルセン選手の記事の方が大きく取り上げていました。残念ながら私はその時金メダルを取った選手の名前は覚えていませんが、この最下位だったアンデルセン選手のことは今も記憶にはっきり残っています。

競争で勝つこと、1位をとることは立派なことです。でも立派なことはそれだけではないことをこのアンデルセン選手のマラソンでの走りは世界中に伝えたのでした。

このエピソードをきっかけにして、子どもたちに道徳で考えさせることができる資料を創りたいと思い立って創作したのが、前回の学校だより第7号の裏面に掲載させていただいた「その後のウサギとカメ」の話です。一昨年の運動会前の学校だよりもに掲載させていただきました。

45分の道徳の授業の中で私が子どもたちに考えさせたのは、たった一つ。「なぜカメはもう一度勝負をしたのだろうか。」です。

話は最後まで伝えてしまうのではなく、カメがあっさり二回目の勝負を受け入れた①のところでストップして子どもたちに考えさせます。

ウサギは前回油断して負けてしまっているのだから、当然今度の二回目は油断するはずがないことは、子どもたちにも容易に予想できます。そうすると、カメが勝つチャンスはまずあり得ない。なのになぜカメはもう一度勝負したのか。カメには一度勝負に勝ったという事実があるわけだから、もう一度勝負するメリットはない。逆に今度負けてしまったら、一勝一敗になってしまうから、もう一度走ることによってカメは損してしまう。

そこで、「カメはみんなと同じようには考えなかったんじゃないかな。」とコメントを入れ、さらに子どもたちに考えさせます。すると、「レースは相手に勝つためだけにするのではない」「勝つことだけを考えていたら、カメは勝負するはずがない」などの意見が出てきます。「カメが勝負したのは、1回目はウサギが油断して勝ったから、今度は負けてもいいから正々堂々と勝負したかったのではないか」「勝つことも大事だけど、それ以上に自分が頑張る姿をカメはみんなに見てほしかったと思う」と言った意見が出てきます。さらに高学年になると、「カメはウサギとの勝負ではなく自分自身との戦いにとらえたのだと思う」と言った意見が飛び出すこともありました。

さすがに子どもたちは柔軟な思考でこの話を考えます。そして、この話の続きを②と③と④のコマを見せて動物たちの会話で締めくくります。

授業の最後に「今度の運動会ではどんな心を大切にしてお参加しますか」と問いかけます。この道徳の時間に学んだことが、運動会当日に子ども一人一人の姿となって現れることを期待して授業を終了します。

ところが、「ウサギだって勝ったことを自慢しなければみんなに認めてもらえたのでは。」と言った子どもがいました。まさしくその通りです。

今回の運動会も保護者の皆様には、是非結果（順位や勝敗）だけでなく子どもたちの頑張りに注目してください。

（尾後貫 智）

